

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は18.40(1251例)で、第4週(27.51)をピークに減少していますが、過去5年平均値(14.51)を上回っています。第4週の定点当たり報告数を過去10年のシーズンのピーク時と比べると、平成17年第9週の39.15、平成12年第4週の34.81、平成16年第6週の30.90に次ぎ、4番目に多くなっています。

◆ 今週のトピックス: <平成20年の百日咳のまとめ>

- ・ 平成20年の定点当たり報告数は1.34(55例)で、平成12年以降で見ると、最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 1例(喀痰塗抹陽性 なし, 無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 23例(喀痰塗抹陽性 6例, 無症状病原体保有者 1例)】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	18.40	1251
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.39	221
	② 水痘	0.66	27
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.51	21
	④ 突発性発しん	0.37	15
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.07	3
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <平成20年の百日咳のまとめ>

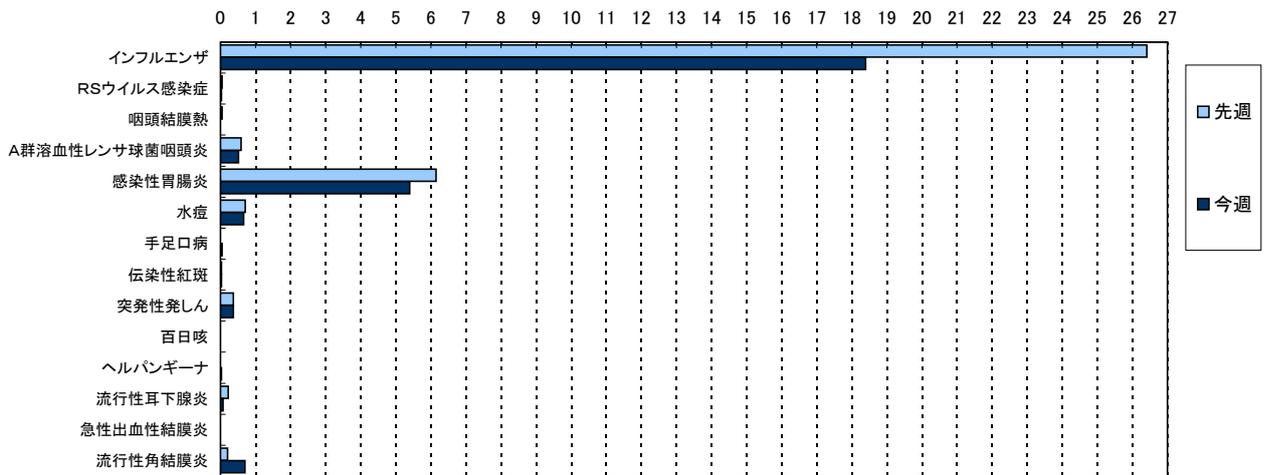
(注) 京都市のデータは、平成21年2月13日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

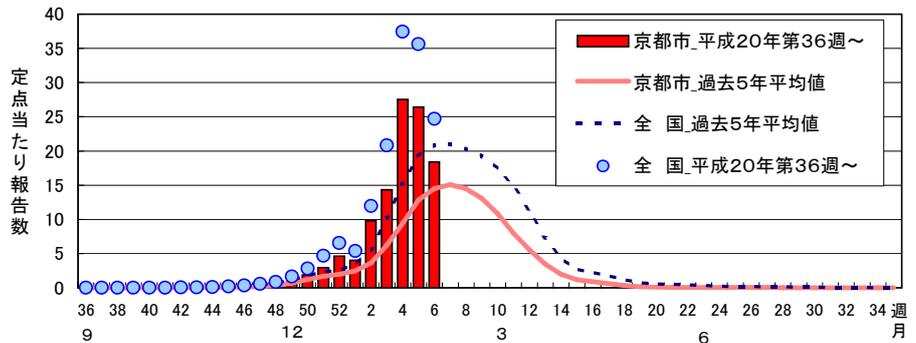
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第6週)と先週(第5週)の定点当たり報告数の比較



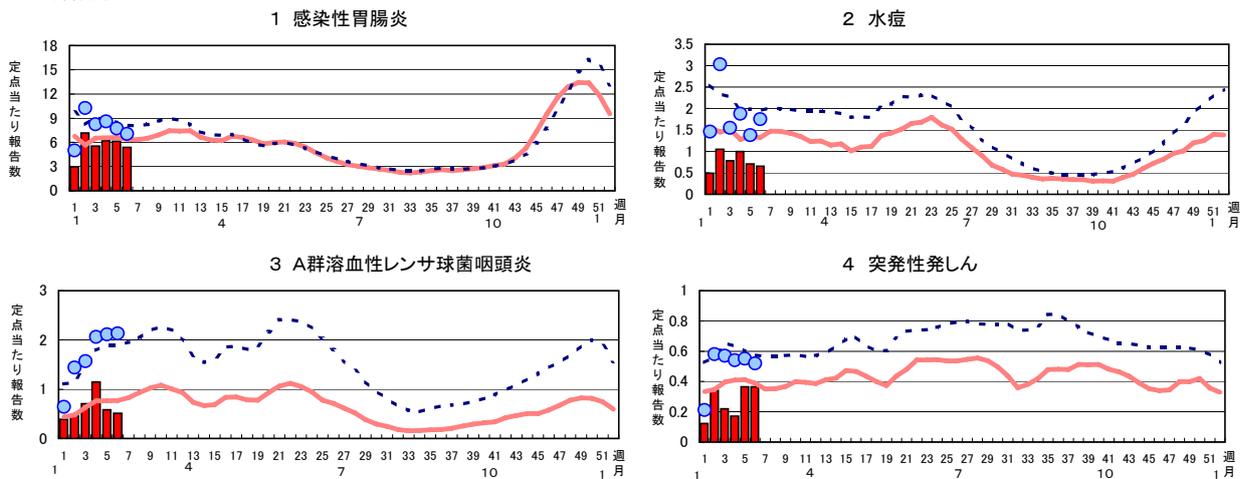
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第2週	666
第3週	973
第4週	1871
第5週	1796
第6週	1251
累積報告数 (第36週以降)	7599

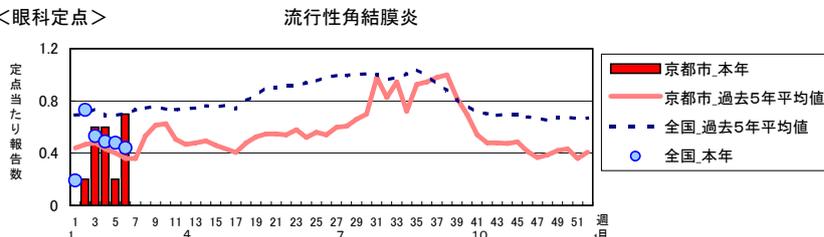


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



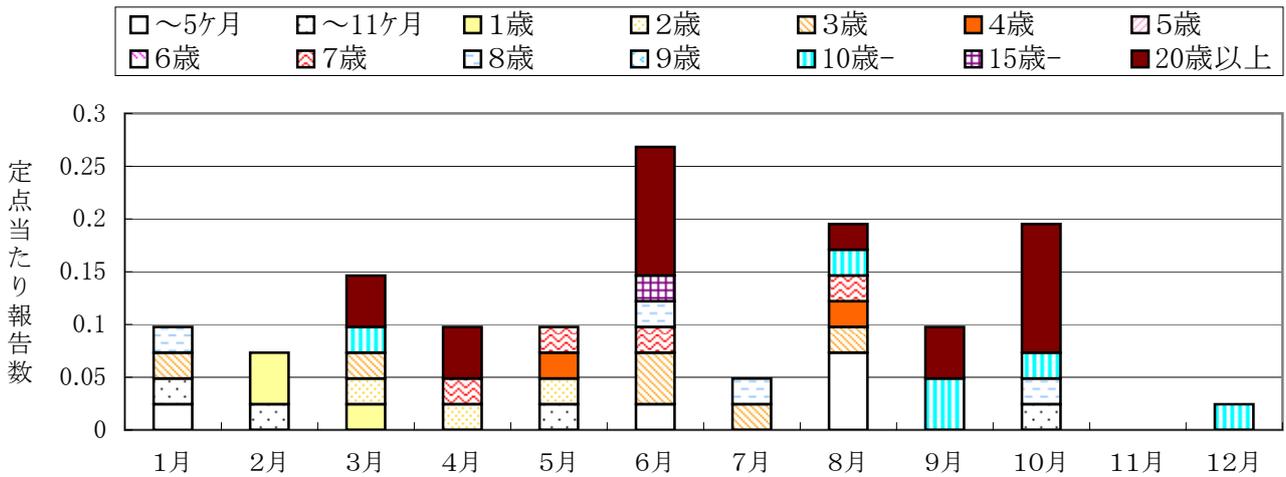
今週(第6週)のトピックス: <平成20年の百日咳のまとめ>

平成20年の定点当たり報告数は1.34(55例)で、平成12年以降でみると、最も多くなっています。推移をみると、6月(第24週)の0.15(6例)が最も多く、8月(第35週)の時点で、平成12年～平成19年の年報告数(17～39例)を上回っています。月推移では、11月を除く、全ての月で報告され、6月が最も多くなっています。

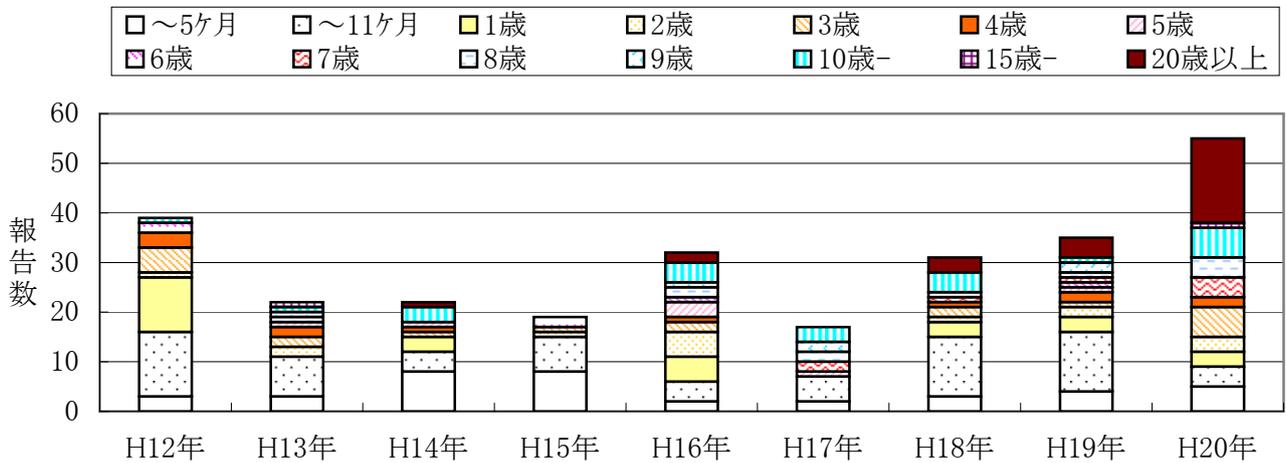
年齢階級別割合にみると、小児科定点からの報告にもかかわらず、20歳以上の割合が、30.9%(17例)を占めています。また、平成18年9.7%(3例)、平成19年11.4%(4例)と、20歳以上の割合は年々増加しています。

行政区別にみると、11行政区中8行政区から報告があり、定点当たり報告数は、東山区(4.00)が最も多く、次いで左京区(3.00)となっています。

月別定点当たり報告数の推移



年別の年齢階級別報告数



平成20年の行政区別定点当たり報告数

